

人材養成および教育研究上の目的		
教育・臨床心理専攻においては、教育と臨床心理の二分野における高度な専門職業人の養成を主たる目的とした夜間大学院として、カリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期の教育分野では、専門的理論と実践的な活動との結合を図ることによって地域社会の求める専門的かつ実践的な指導者を育成することを目的とする。臨床心理分野では、公認心理師及び臨床心理士の資格取得を目指し、広く社会の要請に応えることのできる専門的人材を養成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程よりさらに高度な専門知識と実践能力を磨練し、関連分野の開発研究や実践を担う高度な専門職業人や研究者を養成することを目的とする。		

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）	学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）
＜博士課程前期＞		
人文科学研究科教育・臨床心理専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（教育学）の学位を授与する。		
知識・理解 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育学諸領域に関する専門的知識を有し、教育実践の現場での課題を学術的に検討・説明するために、それらを活用することができる。（DP1） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育分野に関する課題について自らの研究課題を設定し、課題解決のための方法と見解を論文の形式で表現することができる（DP1） 最終試験（修士論文口頭試問等）に合格している（DP1） 	<p>【教育課程の編成】</p> 教育人間学的側面、教育システム論的側面から選択必修科目、異文化間教育、生涯教育、道徳教育等の特講科目を設け、教育学諸領域に関する専門的理論と実践に関する高度な専門知識を増やし、総合的な判断力・思考力を修得する。	<p>【求める学生像】</p> 教育学に関する理論や方法を積極的に学ぶ姿勢を有し、社会における教育の役割を考えながら、教育実践への活用を含めた学術的・実践的な研究を進める意欲的な人材を求める。
技能 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文作成において必要な教育分野に関する高度で専門的な研究方法を修得している（DP2） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題に応じた研究方法を適切に活用することができる。（DP2） 最終試験（修士論文口頭試問等）に合格している。（DP2） 研究課題解決に至った道筋を説得力のある形で提示し、意見交換することができる。（DP2） 	<p>【教育課程の編成】</p> 選択必修科目および選択科目を設け、教育学諸領域における専門的な研究方法および学術的な技能について修得する。	<p>【入学者選抜の在り方】</p> 志望動機を精査した上で、教育学諸領域に関する基礎的な専門知識や研究遂行に必要な語学力を筆記試験で問い、面接では研究計画について質疑応答を行うなど、入試要項に基づき厳格に実施する。
態度・志向性 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付けている。（DP3） 社会における教育の役割を理解し、地域社会に積極的に貢献していく姿勢を有している。（DP4） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会における教育の役割を理解し、研究倫理を踏まえた口頭発表や論文を通して、地域社会の課題に積極的に取り組むことができる。（DP3・DP4） 最終試験（口頭試問等）に合格している（DP4） 	<p>【教育課程の編成】</p> 選択必修科目および選択科目を設け、高度専門職業人としての学術的な態度、教育実践への活用に向けた意欲、研究倫理規範について修得する。	
＜博士課程後期＞		
人文科学研究科教育・臨床心理専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（教育学）の学位を授与する。		
知識・理解 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育学諸領域に関するより専門的で最先端の知識を有し、既存の水準を超える学問的な体系に寄与するため、それらを活用することができる（DP1）。 <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究成果を学内外における発表や学術論文によって公表できる。（DP1） 博士論文を提出し、最終試験に合格している。（DP1） 	<p>【教育課程の編成】</p> 専修科目の教育実践学としての「特別研究」および「特論」を通して、教育と社会との連携・関連を深く学び、専門的で高度な学術知識について習得することができる。	<p>【求める学生像】</p> 教育学に関する専門的で高度な学術知識を有し、教育学を基盤とした総合的な思考力と判断力の修得を目指している人材、そしてそれら習得した力をもって教育現場を中心とした地域社会に貢献したいと考える意欲的な人材を受け入れる。
技能 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育学に関する科学性および倫理性が担保された方法を用いて研究を遂行することができる。（DP2） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育学における学問的な体系性および発展性における学術上の意義を認識し、自立した研究活動を展開することができる。（DP2） 博士論文を提出し、最終試験に合格している。（DP2） 	<p>【教育課程の編成】</p> 専修科目の教育実践学としての「特別研究」および「特論」を通して、科学性および倫理性が担保された研究方法について習得することができる。	<p>【入学者選抜の在り方】</p> 志望動機、筆記試験、研究計画内容の精査および口頭試問により、教育学に関する深い専門的知識と問題発見能力および課題解決能力について、入試要項に基づき厳格に実施する。
態度・志向性 <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理に関する規範意識を身に付けている。（DP3） 教育学に関する高度な専門的・実践能力を兼ね備え、自立した研究者としての態度・姿勢を持っている。（DP4） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度専門職業人もしくは研究者として、研究倫理を踏まえた上で、自立した研究活動を遂行することができる。（DP3・DP4） 	<p>【教育課程の編成】</p> 専修科目の教育実践学としての「特別研究」および「特論」を通して、高度専門職業人あるいは自立した研究者としての態度について修得する。	

人材養成および教育研究上の目的

教育・臨床心理専攻においては、教育と臨床心理の二分野における高度な専門職業人の養成を主たる目的とした夜間大学院として、カリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期の教育分野では、専門的理論と実践的な活動との結合を図ることによって地域社会の求める専門的かつ実践的な指導者を育成することを目的とする。臨床心理分野では、公認心理師及び臨床心理士の資格取得を目指し、広く社会の要請に応えることのできる専門的人材を養成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程よりさらに高度な専門知識と実践能力を練磨し、関連分野の開発研究や実践を担う高度な専門職業人や研究者を養成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）	学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）
＜博士課程前期＞		
人文科学研究科教育・臨床心理専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（臨床心理学）の学位を授与する。	人文科学研究科教育・臨床心理専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	人文科学研究科教育・臨床心理専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人を受け入れる。
<p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】 高度専門職業人（公認心理師、臨床心理士）として臨床心理学に関する専門的で高度な知識や理論を修得し、臨床実践や研究活動に活かすことができる。（DP1）</p> <p>【到達指標】 ・臨床心理学に関する専門的な知識や理論について理解し、臨床実践に活かしたり論文形式で表現することができる。（DP1） ・最終試験（修士論文口頭試験等）に合格している（DP1）</p>	<p>【教育課程の編成】 高度専門職業人（公認心理師、臨床心理士）の資格取得に必要な科目および特別演習を設け、高度な知識や実践理論に関する授業を体系的に展開する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・講義、文献を活用した輪読、演習（ペアワーク、グループワーク）、実習（学内実習、学外実習）を体系的・実践的に展開する。臨床指導は個別スーパービジョン、集団スーパービジョンを重層的に行う。 ・修士論文は研究指導教員による個別指導はもちろん、修士論文中間発表会では集団指導を行う。論文発表会は、分野関係者に広く公開している。 ・臨床実践をまとめ公表する機会を紀要という形で設けている。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・授業で与えられた課題の到達度、実習への取り組み、修士論文により評価する。（DP1） ・複数で担当する科目は、担当者間で協議し評価する。（DP1）</p>	<p>【求める学生像】 人への関心と人権を尊重する倫理観をもち、共感的な態度とかかわりを重視する人材、さらに専門的知識に裏打ちされた援助技法を身につけ、広く人々の心の健康の保持増進に寄与する職業に就くことを希望する人材を受け入れる。</p>
<p>技能</p> <p>【学修成果の目標】 ・臨床心理学に関する研究方法を用いて研究を遂行する能力を有している。（DP2） ・資格取得に求められる基本的な実践技能を有している。（DP3）</p> <p>【到達指標】 ・研究課題に応じた研究方法を適切に活用することができる。（DP2） ・資格取得に求められる基本的な臨床実践技能を身につけている。（DP3） ・最終試験（修士論文口頭試験等）に合格している（DP2）</p>	<p>【教育課程の編成】 資格取得に必要な科目および特別演習を設け、高度専門職業人として身につけるべき基本的な技能を体系的、実践的に習得する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・講義、演習（ペアワーク、グループワーク）、実習（学内実習、学外実習）を体系的・実践的に展開する。臨床指導は個別スーパービジョン、集団スーパービジョンを重層的に行う。 ・修士論文は研究指導教員による個別指導はもちろん、修士論文中間発表会では集団指導を行う。論文発表会は、分野関係者に広く公開している。 ・臨床実践をまとめ公表する機会を紀要という形で設けている。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・授業で与えられた課題の到達度、実習への取り組み、修士論文により評価する。（DP2・DP3） ・複数で担当する科目は、担当者間で協議し評価する。（DP2・DP3）</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 志望動機を精査した上で、臨床心理学に関する基礎的専門知識や研究遂行に必要な語学力を筆記試験で確認し、面接では研究計画や高度専門職業人を目指すものとしての姿勢や態度について問うなど、入試要項に基づき厳格に実施する。</p>
<p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】 ・研究倫理に関する基本的な規範意識を身に着けている。（DP4） ・心理専門職を目指すものとしての倫理観（人への関心と人権を尊重する倫理観）を有している。（DP5） ・心理専門職を目指すものとしての共感的態度を有している。（DP6）</p> <p>【到達指標】 ・研究倫理を踏まえて研究課題を発見し、論文として表現できる。（DP4） ・心理専門職を目指すものとしての倫理観（人への関心、人権を尊重する倫理観）を身につけている。（DP5） ・心理専門職を目指すものとしての共感的な態度を身につけている。（DP6） ・最終試験（修士論文口頭試験等）に合格している。（DP4）</p>	<p>【教育課程の編成】 資格取得に必要な科目および特別演習を設け、高度専門職業人として身につけるべき態度について体系的、実践的に展開する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・講義、演習（ペアワーク、グループワーク）、実習（学内実習、学外実習）を体系的・実践的に展開する。臨床指導は個別スーパービジョン、集団スーパービジョンを重層的に行う。 ・修士論文は研究指導教員による個別指導はもちろん、修士論文中間発表会では集団指導を行う。論文発表会は、分野関係者に広く公開している。 ・臨床実践をまとめ公表する機会を紀要という形で設けている。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・授業で与えられた課題への到達度、実習に取り組む姿勢や態度により評価する。（DP4・DP5・DP6） ・複数で担当する科目は、担当者間で十分に協議する。（DP4・DP5・DP6）</p>	
＜博士課程後期＞		
人文科学研究科教育・臨床心理専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（臨床心理学）の学位を授与する。	人文科学研究科教育・臨床心理専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	人文科学研究科教育・臨床心理専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生等を受け入れる。
<p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】 ・臨床心理学に関するより専門的で高度な学術知識や実践理論を修得し活用することができる。（DP1）</p> <p>【到達指標】 ・研究成果を学内外における発表や学術論文によって公表できる。（DP1） ・博士論文を提出し、最終試験に合格している。（DP1）</p>	<p>【教育課程の編成】 臨床心理学特別研究および特論を通して、臨床心理学に関する専門的で高度な学術知識や実践理論について修得する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 研究指導教員による個別指導を主体とした指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・授業での議論、発表、課題への取り組み等と、博士論文により評価する（DP1）</p>	<p>【求める学生像】 博士課程後期では、すでに学校、医療、福祉等の領域で臨床活動に従事している、心理的課題を抱える人の社会生活の質の改善に関心をもち、更に効果的な援助技法の開発に意欲的な人材を受け入れる。</p>
<p>技能</p> <p>【学修成果の目標】 ・臨床心理学に関する科学性および倫理性が担保された方法を用いて研究を遂行し、既存の研究水準を超える学問的な体系に寄与する研究を展開することができる。（DP2）</p> <p>【到達指標】 ・臨床心理学における学問的な体系性および発展性における学術上の意義を認識し、自立した研究活動を展開することができる。（DP2） ・博士論文を提出し、最終試験に合格している。（DP2）</p>	<p>【教育課程の編成】 臨床心理学特別研究および特論を通して、科学性および倫理性が担保された研究方法について修得する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 研究指導教員による個別指導を主体とした指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 科学性および倫理性が担保された研究方法を活用して、授業における議論、発表、課題への取り組み等と、博士論文により評価する。（DP2）</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 志望動機、筆記試験、研究計画内容の精査および口頭試験により、臨床心理学に関する深い専門的知識と問題発見能力および課題解決能力について、入試要項に基づき厳格に実施する。</p>
<p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】 ・研究倫理に関する規範意識を身につけている。（DP3） ・臨床心理学に関する高度な専門的・実践能力を兼ね備え、自立した研究者としての態度・姿勢を持っている。（DP4）</p> <p>【到達指標】 ・研究倫理を踏まえた上で、究者として自立した研究活動を遂行することができる。（DP3・DP4）</p>	<p>【教育課程の編成】 臨床心理学特別研究および特論を通して、高度専門職業人あるいは自立した研究者としての態度と研究倫理について修得する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 研究指導教員による個別指導を主体とした指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・授業や学内外研究発表会における議論、発表、論文に取り組む姿勢や態度、そして博士論文により評価する。（DP3・DP4）</p>	